



Professional HDX, Thunderbolt2™, USB, MADI Audio Interface

GOLIATH HD

オーナーズマニュアル

目次

1. 製品を安全にご利用頂くために	4
2. はじめに	5
3. 主な仕様	6
4. インストール・アクティベーション	7
5. フロントパネル	9
6. リアパネル	10
7. タッチスクリーン	11
8. ソフトウェアコントロールパネル	15
9. 同梱品	24
10. トラブルシューティング	24
11. 技術仕様	25

1. 安全にご利用いただくために



感電・火災などのリスクを減らすためにご一読下さい。

- ネジを外したり、カバーを開けないでください。ユーザー様ご自身で修理できるパーツはございません。修理や調整が必要な場合はテクニカルサポートまでご連絡ください。
- 水に濡れる可能性がある場所や、湿度の高い場所にさらさないでください。
- 万が一、異物や液体が製品に混入した場合は直ちに電源を落とし、コンセントを抜いてください。異物や液体が完全に取り除かれるまでは使用を控え、メーカーまでご連絡ください。火災や致命的な故障の原因となります。
- 濡れた手で電源ケーブルに触れないでください。
- 電源ケーブルを抜き差しする場合は、必ず本体の電源スイッチを落とした状態で行ってください。
- 本体の上に物を置かないでください。また本体は、周辺機器の動作に影響を与えそうな狭く換気の乏しい場所での使用はしないでください。
- 故障が起きたときはまず電源を落とし、電源ケーブルを抜いてください。自分で直そうとせず、テクニカルサポートまたはディーラーまでご連絡ください。
- 暖房器具からの熱風が直接あたる場所や、パワーアンプの近くには設置しないでください。
- お掃除の際には強い化学薬品は使用せず、電子機器専用のクリーナーをご使用ください。
- 本体の電源を入れる前に全ての周辺機器を接続してください。
- 本製品の電源ケーブルはアースが接続されています。アースを取り付けずに本製品を使用しないでください。
- AC電源ケーブルは人が踏んでしまうような場所や、他の物が上に乗ることのないように設置、接続するようにしてください。
- 本製品の電源を完全に落とす場合は、本体の電源を落としてからコンセントを外し、本体から電源ケーブルを抜いてください。
- ヘッドフォンやモニターを通して頻繁に、または長時間大きい音量・音圧に耳を晒してしまうと聴覚器官の損傷の恐れがありますので、くれぐれもご注意ください。
- 持ち運び、運送の際には必ず本製品をラックから外してお持ちください。
- 本製品は下記の温度環境で動作するように設計されています

0-50 °C、32-122°F

2. はじめに

この度は Antelope Audio の Goliath HD をご購入いただき、誠にありがとうございます。

Goliath HD は、Thunderbolt™ Gen2、USB 3.0、2つの MADI 接続を介して、Pro Tools HD またはネイティブ DAW で使用できる 64 チャンネル・インターフェースです。
豊富な I/O オプションを備え、個別のボリュームコントロールを備えた 16 機のアコースティックプリアンプ、ダイナミックレンジが 124dB の 32 アナログインプット、ダイナミックレンジが 129dB の 32 アナログアウト、マスタリンググレードのモニター出力のダイナミックレンジは驚異の 132dB 誇ります。
Goliath HD には、4 つのインストゥルメント入力、2 つのトランスリアンプ出力、内蔵のトークバックマイク、2 つのヘッドフォン出力、1 組のアナログインサートが装備されています。これだけにとどまらず、AES、MADI、ADAT、S/PDIF 接続も可能です。

Goliath HD はハードウェアベースの FPGA FX を完全なまでに実装しています。これは、史上、最も優れたゼロレイテンシーの Vintage EQ、コンプレッサー、ギターアンプ & キャビネットモデルが含まれます。リアルタイムのトラッキングやミキシングに使用し、お気に入りの設定のプリセットを簡単に保存できます。これらは、世界中の Antelope Audio ファミリーの一部でもあるスタジオ施設と簡単に共有できます。

HD と汎用ポートの両方をサポートすることで、エンジニアは HD と低レイテンシーの Thunderbolt™ および、USB3.0 を簡単に切り替えることができ、ラップトッププロジェクトに対応し、既存の HD セットアップに統合できるようになりました。
Antelope 独自の HDX Delay Compensation により、アナログまたはデジタル入力は、タイムライン上で正確に Pro Tools HD サンプルに到達することができます。市場には、Pro Tools HD ソフトウェアへのデジタルソースの完全な統合を実現する他のインターフェースはありません。

Antelope Audio のリアルタイム FX、レイテンシーに依存しない、独立したソフトウェアミキサー、2 つの表示を備えたルーティングマトリックスは、最大限のパワーを発揮し、Pro Tools HD スタジオに最適です。Goliath HD は市場で最も高い評価を受けている DAW との互換性を約束します。

新しく導入されたフルセッションプリセットは、複雑で大規模なセットアップや、Goliath HD で処理できるように組み上げたプロジェクトに最適です。

Goliath HD が他のインターフェースとまったく異なる理由は、世界的に有名な Antelope 独自の 64bit Acoustically Focused Clocking (AFC) ジッター管理技術のためです。私たちはデジタルクロッキング技術において 20 年以上に渡り成果を出し続け、OCX HD と Trinity の音声クロッキング技術で Goliath HD をバックアップしました。この無類の音質と精密さ、アナログの信頼性は、あなたのサウンドをハイエンドオーディオ領域にもたらしめます。また、ループ同期、標準ワードクロック、Antelope Audio 10M アトミック入力として BNC コネクタを装備、スタジオ全体にこの完成度を広めることができます。

Goliath HD はフロントパネルを再設計しました。モニターとレベルインジケータが強化され、タッチスクリーンは、マルチチャンネルメータリング、HD またはネイティブインターフェースのためのプリファレンス、プリセット、クロッキングモード選択への簡単な操作を実現します。これだけではなく、Goliath HD 専用 Android & iOS 互換モバイルアプリで、スマートフォンやタブレットをオーディオインターフェイスのリモートコントローラーに仕立て上げます。Goliath HD は、最も要求の厳しいコントロールルームでも静かな動作を保証します。

詳しい情報は弊社オンラインサポートにて Q&A、サポートセンターを設けております。
また、www.antelopeaudio.com にて製品の登録ができます。

それでは Goliath HD で新たな世界を堪能してください！

All the best,
The Antelope Team

3.主な仕様

- ハードウェアベースの FX : EQs, Compressors, Reverb, Guitar Amps & Cabinets
- 独自の Field Programmable Gate Array (FPGA) でヴィンテージ機材を完全再現
- 2つの HDX ポート
- USB 3.0 対応
- Thunderbolt2 対応
- 16チャンネルのコンボジャック・インプット(1-4Hi-Zに対応、1-2AD インサートも搭載)
- 4つの Hi-Z 入力 (インストゥルメンタル入力は Hi-Z のみに対応)
- 2つの DB25 でライン入力を16チャンネル対応
- 4つの DB25 でライン出力を32チャンネル対応
- 2つのリアンプ回路搭載
- 2つのヘッドフォン出力搭載
- 2つの AD インサート搭載 (マイク/ライン入力1-2用)
- S/PDIF 入力 (2ch)
- S/PDIF 出力 (2ch)
- 4つの DB25端子 AES/EBU 入力 (8ch)
- 4つの DB25端子 AES/EBU 出力 (8ch)
- 2つの ADAT 入力
- 2つの ADAT 出力
- BNC 端子のアトミック・クロック入力搭載
- BNC 端子のワードクロック入力 (HDX ループ同期にも使用)
- BNC 端子のワードクロック出力×2 (HDX ループ同期にも使用)
- 2 つの MADI 入出力 (最大64チャンネル対応)
- 1/4 TRS 端子 のモニターラインアウト×1 (LRch - Stereo pair)
- トークバックマイク搭載
- 3.5インチ高解像度TFTディスプレイ (262,000色) タッチスクリーンパネル
- すべてのモニターまたはライン出力とヘッドフォンボリュームコントロール用ノブ

4. インストール

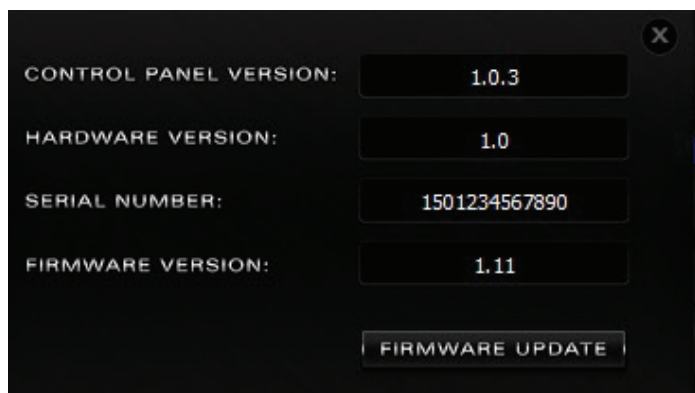
コンセントに電源ケーブルを挿して下さい。

電源ケーブルを本体のリアパネル、電源ソケットに挿して下さい。

1. USB 3.0 ケーブルで、お使いのコンピューターと本機を接続して下さい。
2. Goliath HD のランチャーをダウンロードしてください。
<http://www.antelopeaudio.com/products/goliath-hd/>
3. ランチャーを起動すると自動的にソフトウェアコントロールパネルがダウンロードされます。
4. コントロールパネルを開き、指示に従いアクティベーションして下さい。
5. Goliath HD に使用する入出力を接続して下さい。
6. お使いの DAW を開き、使用するデバイスを Goliath HD に設定して下さい。

注意：ご使用の Goliath HD に最新のファームウェアがインストールされていることを確認してください。ファームウェア情報を確認するには、情報パネルを選択し、Firmware Update をクリックします。

参考画像



アクティベーション

本機はアクティベーションが完了しないと使用できません。
必ずアクティベーションを行って下さい。

本機とお使いのコンピューターを USB3.0 で接続して下さい。

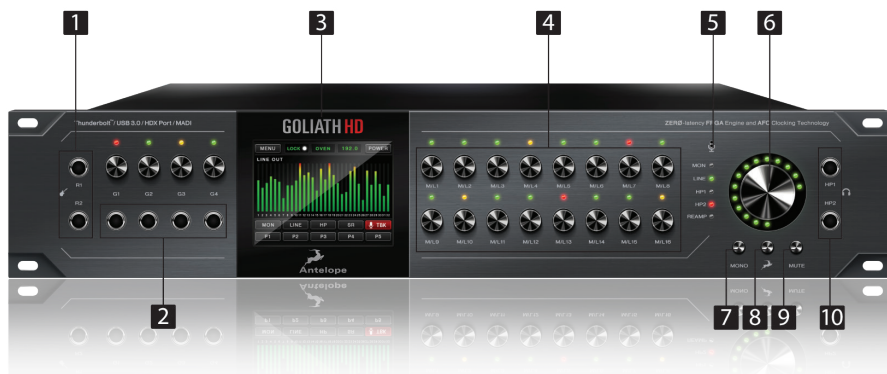
以下のページへアクセスして下さい。

<http://www.antelopeaudio.com/products/goliath-hd/>

1. Goliath HD のランチャーをダウンロードしてください。
2. ランチャーを起動するとソフトウェアコントロールパネルが自動でダウンロードされます。
3. アクティベーション画面が表示されます。既にアカウントをお持ちの方は
"Use existing Antelope ID" をクリックしログイン情報を入力して下さい。
4. アカウントをお持ちではない方は、"user ID" "e-mail" "password" を入力し "Done" を
クリックして下さい。
5. 登録したメールアドレスに確認用のメールが送信されます。メールを開きのアクティベー
ションリンクをクリックしてください。もしメールが見当たらない場合は迷惑
メールフォルダを確認して下さい。
6. ランチャーに戻り、記入項目を埋めて "Done" をクリック下さい。
7. 以上でアクティベーションは完了です。

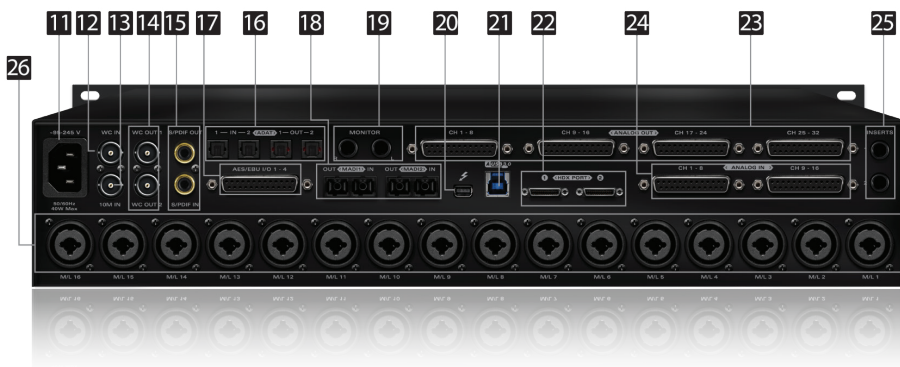
注意：Goliath HD が有効にならない場合は、タッチスクリーンに赤いウィンドウが表示さ
れ、PLEASE ACTIVATE と表示されます。上記の手順に従って正常に起動してください。

5. フロントパネル



1. **リアンプ出力×2**
ギターアンプでリアンピングするために使用するダイレクト出力です。
2. **Hi-Z 入力 ×4**
Hi-Z 入力には専用コントロールノブがあります。Hi-Z 入力はベースやギターなどの楽器を接続するのに適しています。
3. **高解像度 TFT ディスプレイ(タッチパネル)**
さまざまな情報を表示し、デバイスの様々な機能を制御するタッチスクリーン。
4. **チャンネルゲインコントロールノブ
インプットセレクター**
チャンネルの入力信号を調整するには、ノブを左右に回します。値は 1dB ステップで調整できます。ピークインジケータは、入力信号のレベルに応じて点灯します。ノブを押し続けると対応するチャンネルをミュートできます。
5. **入力モード (入力1～4のMic、Line、Hi-Z) を切り替えるには、コントロールノブを押します。入力信号の種類に合わせて選択してください。**
6. **トークバックマイク**
トークバックマイクを有効にします。ソフトウェアコントロールパネルを使用して、選択したヘッドフォン、モニターに出力することができます。
7. **メインコントロールノブ (LEDリング)**
ノブを回してモニター、ライン、HP、リアンプ出力の音量レベルを調整することができます。LEDリングには、選択した出力のボリュームコントロールまたはミュート状態が表示されます。
7. **モノボタン**
メインコントロールで選択している現在の出力をモノにできます。
8. **アンテロープボタン**
他のボタンと組み合わせてさまざまなメニューにアクセスします。
アンテロープボタン&モノボタン：タッチスクリーンのキャリブレーションモードに入ります。
デバイスの電源を入れる前に、モノボタンとミュートボタンを押し続けてください：ファクトリーリセットを実行
9. **ミュートボタン**
メインコントロールノブで選択されている現在の出力をミュートします。
10. **ヘッドフォン出力×2**
2つの独立してアサイン可能なヘッドフォン出力。メインコントロールノブで選択とコントロールが可能です。現在操作している出力のライト、HP1 または HP2 が点灯します。

6. リアパネル



11. 電源コネクタ

このコネクタは 95～245V の電圧をサポートしています。ですので、世界中で電圧を気にせずに使用できます。

12. ワードクロック入力

(HDX ループ同期にも使用)
BNC 端子のワードクロック入力です。

13. 10M 入力

BNC 端子入力により、Goliath HD は、Antelope 10M や 10MX などのアトミッククロックからタイミングファレンスを受信し、オシレータの精度を向上させることができます。デバイスがオープンモードの場合、タッチスクリーン上で「オープン」ライトを「アトミック」に変え、アトミックデバイスが基本の同期対象となり、サンプル制度を向上させ、より音質や安定性の向上が可能になります。

14. ワードクロック出力

(HDX ループ同期にも使用)
2つの BNC 端子のワードクロック出力です。

15. S/PDIF

75Ω S/PDIF の入出力

16. ADAT 入出力

2つの入力と2つの出力端子 (1端子 最大8チャンネル)

17. AES/EBU

D-SUB 25 TASCAM 互換端子
4つの入力と4つの出力

18. MADI 入出力

2つの MADI 入出力
最大64入力、64出力

19. モニター出力

ステレオペアのバランスモニター出力

20. Thunderbolt™ ポート

Thunderbolt™ コネクタを利用して Goliath HD と Mac を接続できます。ケーブル別売

21. USB 3.0 ポート

USB3.0 コネクタを利用して Goliath HD と Windows/Mac を接続できます。

22. HDX ポート

Goliath HD を HD システムに接続できます。(ケーブルは含まれません)。

23. アナログラインアウト (上段)

D-SUB 25端子
8チャンネル・ライン出力×4

24. アナログラインインプット (下段)

D-SUB 25端子
8チャンネル・ライン入力×2

25. AD インサート

AD変換前にダイナミックプロセッサーやEQなどを使用するための ¼TRS 入力端子 (L&R)

26. マイク/ライン入力

16機のクラスAマイクブリ/ライン入力
ファンタム電源供給可能なコンボジャック
最初の4チャンネルは Hi-Z に対応

7. タッチスクリーン

Goliath HD はフロントパネルにタッチスクリーンを備えています。ここからデバイスのすべてのオプションにアクセスできます。タッチスクリーンには次のオプションがあります。

メニュー

さまざまな Goliath HD のパラメータを調整できます：



Comm Interface

USB か Thunderbolt™ の接続切り替えができます。

Screen Saver Style and Time

スクリーンセーバーが表示されるまでの時間と、スクリーンセーバーのスタイルを変更します。

SR Conversion

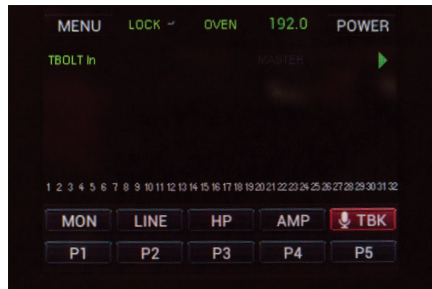
S/PDIF 入力のサンプルレートコンバータを有効または無効にします。

Presets Saving

現在の設定をプリセットに保存することができます。

Main Display

タップすると、メーター選択メニューがでます。



Lock

Goliath HD が入力信号にロックされているかどうかを示します。



MON

モニターのメニューを選択して、メインコントロールノブからモニター音量を調整します。



LINE

ライン出力メニューを選択して、出力音量を調整します。



HP

2つのヘッドホン出力を選択し、音量を調整します。



PREAMP Volume

プリアンプのインプットを選択し、音量を調整します。



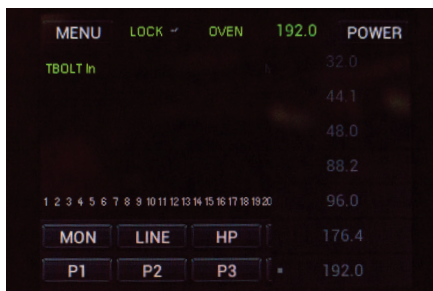
CS

Goliath HD の現在のクロックソースを表示します。デフォルトではオープンに設定されています。選択したソースがタッチスクリーンの上部に表示されます。タップして、利用可能なクロックソースから選択します。選択したものは上記のセクションに表示されます。



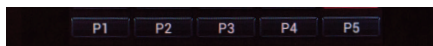
SR

Goliath HD のサンプルレートを選択します。使用可能なサンプルを見るには SR ボタンをタップしてください。現在のレートがタッチスクリーンの上部に表示されます。



Presets 1-5

すべてのデバイス設定を5つのプリセットスロットのうちの1つに保存します。P1～P5のボタンを押すと、プリセットを切り替えることができます。



TBK

トークバック音量と出力を調整します。（HP1、HP2、メインモニター出力）

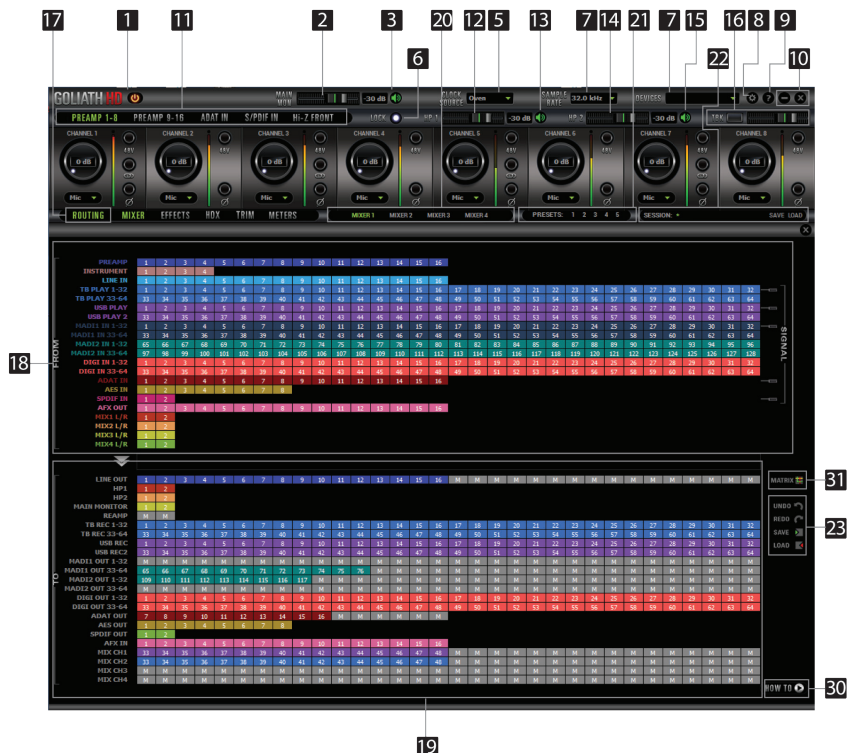


8. ソフトウェアコントロールパネル

8.1. メインオプション画面・ルーティング画面

ユニバーサルパネルは常にコントロールパネル上部に表示され、主な操作が簡単に出来ます。

メイン画面：



1. 電源 / スタンバイボタン
2. メインモニターボリュームスライダー
3. メインモニターミュートボタン
4. クロックソース選択

このドロップダウンメニューでは、Goliath HD の同期方法を選択できます。OVEN は内部クロックでの動作。W.C. はワードクロック入力同期、ADAT、MADI、S/PDIF、AES、はデジタル入力信号との同期、HDX / Thunderbolt™ / USB はそれぞれの接続に同期します。

5. サンプルレート選択

クロックソースとサンプルレートを選択すると、入力/出力ルーターで使用可能なチャンネル数が自動的に決定されます。

6. Lock light

Goliath HD が別のクロックソースに接続されると、パネルがロックされ、クロックソースに「Pad Lock」と表示され、プリセットを変更することができなくなります。プリセットは、クロックソース情報とサンプルレートを保存しません。デバイスがクロックロックを受信している間にプリセットを調整します。

7. Devices

コンピュータに接続されている Antelope Audio デバイスまたは同じネットワーク上の Antelope Audio デバイスを切り替えることができます。

8. 設定

9. 情報

10. Window の最小化 / 閉じる

11. PREAMP 1-8 / PREAMP 9-16 / ADAT IN / S/PDIF IN / Hi-Z FRONT セクション

12. ヘッドフォン (HP 1) ボリュームスライダー

13. ヘッドフォン (HP 1) ミュートボタン

14. ヘッドフォン (HP 2) ボリュームスライダー

15. ヘッドフォン (HP 2) ミュートボタン

16. トークバック有効ボタン / 状態表示 & トークバックボリュームフェーダー

17. ルーティング 表示 / 非表示

18. 'From' セクション (ルーティング画面)

19. 'To' セクション (ルーティング画面)

20. Mixers 1-4 セクション

21. Presets 1-5 セクション

5つプリセット領域を使用して、お気に入りの設定を保存して簡単にアクセスできます。

新しいプリセットを保存するには：

- Ctrl (PC) または Command (MAC) を押しながらプリセットボタン（ソフトウェアコントロールパネル内）をマウスでクリックする。または、
- Ctrl (PC) または Command (MAC) を押し、キーボードの1～5の番号を押します。

22. Session Save / Load

すべてのコントロールパネルオプションを保存して呼び出すことが出来るようになりました。すべての入力と出力、クロックモード、ASIOドライバ設定、AFX と AuraVerb の各設定のゲインレベルを、各パラメータを含めて復元することができます。フルセッション保存機能により、ミキサーとルーティングの調整を保存して呼び出しすることもできます。ウィンドウの位置さえも呼び出すことができます。

23. ルーティングの Undo/Redo Save/Load (ルーティング画面)

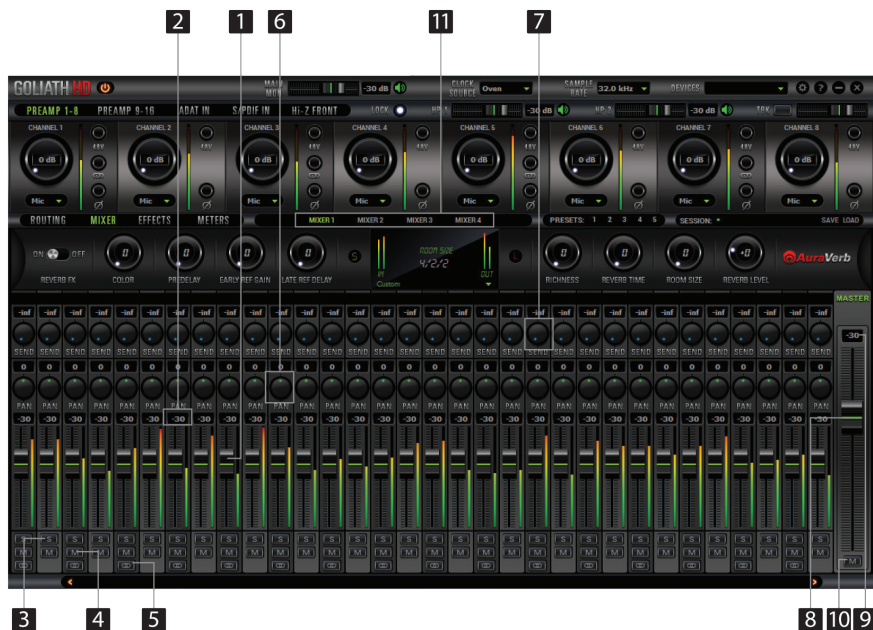


24. Mic Line Hi-Z (1-4のみ) 選択

メニューで選択されているものが実際に入力されている種類と一致していることを確認して下さい。

25. チャンネルゲイン
(1dB 単位で調整可能), Ctrl + クリック (Win) / Cmd + クリック (Mac) でミュート出来ます。
26. ピークメーター
27. 48V ファンタム電源スイッチ (個別にアサイン可能)
28. 位相反転スイッチ
29. ステレオリンク
30. “How To...” ビデオチュートリアル
31. オルタナティブ・ルーティングマトリックス画面

8.2. ミキサー画面



1. フェーダー (ダブルクリックで 0 にリセット)
2. フェーダーレベル表示
3. Solo
4. Mute
5. ステレオリンク
6. Pan (ダブルクリックで 0 にリセット)
7. Send (ダブルクリックで 0 にリセット)
8. マスターミックスフェーダー (ダブルクリックで 0 にリセット)
9. マスターミックスフェーダーレベル表示
10. マスターミュート
11. ミキサー 1-4 表示 / 非表示 (Goliath HD には 4つの超低レイテンシーミキサーがあります)

ゼロレイテンシーミックスのモニタリングをコントロールパネルから出力にルーティングすることができます。

例えば、32個の USB PLAYチャンネルをすべて MIXER 1 チャンネルにドラッグし、MIX1 L/R を LINE OUT 1-2 にドラッグ&ドロップすると、LINE OUT 1-2 はステレオミックスバスとなります。

低レイテンシーミキサーは、ソロ、ミュート、パン、ステレオリンク、フェーダー、マスターフェーダーなど、実際のミキサーの基本的な機能をすべて備えているので、簡単にステレオミックスと制作でき、Goliath HD の FPGA エフェクトも使用可能です。



AuraVerb は実用性と操作性を兼ね備えたリバーブであり、Goliath HD により、お使いのパソコンに一切負担をかけず、ゼロレイテンシーに近いエフェクトモニタリングが可能です。AuraVerb はさらに、お使いの DAW からハードウェアエフェクトとして使用できるので、ミキシングやマスタリングの際にも AuraVerb を使用することが可能です。

デフォルトではリバーブはオフの状態です。



● Quick Start

Goliath HD のミキサー上で AuraVerb はプリフェーダーセンドエフェクトとして表示されます。リバーブへ信号を送る場合、ミキサーの各チャンネルのセンドコントロールから設定し、ミキサーのマスターチャンネルへのリターン調整はリバーブアウトプットレベルから行って下さい。リバーブをモニターしたい場合、Goliath HD のルーティング画面から MIX 1[1][2] を MONITOR [1][2] へクリック・ドラッグすることでミキサー出力をモニターヘルーティングできます。リバーブミックスの調整はミキサーチャンネルフェーダーのドライシグナルとリバーブアウトプットレベルで調整して下さい。

AuraVerb Parameters

● Color

AuraVerb のカラーコントロールはリバーブの全体的なトーンを調整できます。数値が0のときは暗い絨毯敷きの部屋の雰囲気、100のときは最も明るく、例えばリードボーカルにジリジリとしたエフェクトを足すことができます。

● PreDelay

Predelay は一般的なリバーブにもある機能で、音源ソースとリバーブ成分との間にディレイをかけるパラメーターです。

このパラメータは、未処理の信号に対して、後ろに残響信号を配置するために使用されます。このパラメータの設定範囲は、環境サイズに基づいており、0～32ms の範囲です。このパラメータはプロジェクトのテンポや、強調したいタイミングに合わせて調整するとミックス内で最もリバース感を活かせることが出来ます。

- **Early Reflection Gain**

このパラメーターは初期反射の音を調整できます。レベルが低ければドライサウンドとよく馴染み、レベルが大きければ、トラックに厚みを増せます。

- **Late Reflection Delay**

AuraVerb は仮想空間における壁や天井から反射される振動を計算します。そしてこのパラメーターはこのような反響のディレイを調整することができ、仮想空間上でのエコーの生成や空間的な印象を操作できます。

AuraVerb では、音響環境をより細かく設定するために、いくつかのパラメータを微調整することができます。

- Richness
- Reverb Time
- Room Size
- Reverb Level

AuraVerb には、さまざまなジャンルや楽器に適した24のプリセットが用意されています。

S&L アイコンは、AuraVerb プリセットの保存と読み込みが出来ます。

AuraVerb の詳細については、当社のWebサイトをご覧ください：
<http://www.antelopeaudio.com/en/support/downloads>

8.3 エフェクト画面



16個の Goliath HD AFX チャンネルストリップを表示します。EQ、コンプレッサー、ヴィンテージギターアンプ、キャビネットのいずれかを選択できます。Goliath HD には、常に最新の FPGA Vintage FX "Legendary Studio Gear Antelope Audio Library" が付属しています。それらはすべてリアルタイムのトラッキングまたはミキシングに使用できます。お気に入りの設定が保存されているプリセットは、Antelope Audio のグローバルファミリーの一部でもあるスタジオ施設と簡単に保存、呼び出し、共有できます。

8.4. メーター画面

メーター画面では、Goliath HD から出てくるすべてのオーディオ信号の音量を測定できます。ドロップダウンメニューを使用すると、信号レベルを視覚化したいルーティングマトリックスセクションを簡単に切り替えることができます。



8.5. HDX 設定画面

HDX 画面では、HDX Delay Compensation モードを選択し、すべての HDX オーディオチャンネルをコントロールできます。



1. HDX Compensation モードメニュー
2. HDX 1 デバイスメニュー & リセットボタン
3. HDX 1 チャンネル
4. HDX 2 デバイスメニュー & リセットボタン
5. HDX 2 チャンネル
6. Loop Sync In
7. Loop Sync 有効 / 状態表示
8. Loop Sync Out

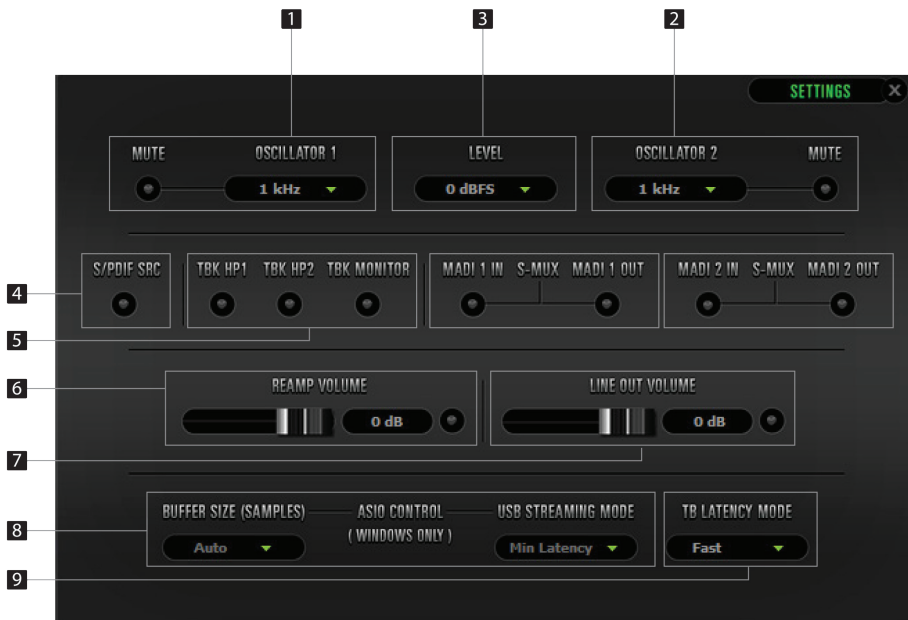
8.6. トリム画面

トリム画面では、モニタートリムレベルを調整し、ラインアウト・トリムを適用することができます。



8.7. 設定画面

ギア・アイコンをクリックすると、設定パネルが表示されます。



1. オシレーター 1 & Mute
2. オシレーター 2 & Mute
3. オシレーター 出力レベル
4. S/PDIF SRC 表示
5. トークバック HP1 / HP2 / Monitor 表示
6. リアンプボリューム
7. ライン出力ボリューム
8. Windows のみ: ASIO設定 - バッファサイズ & USB ストリーミングモード
9. Thunderbolt™ レイテンシーモード

9. 同梱品

- Goliath HD 本体
- オーナーズマニュアル
- 保証書
- 電源ケーブル
- USB ケーブル
- クリーニングクロス

10. トラブルシューティング

起動とサウンド

- 最新版のファームウェアとコントロールパネルを使用していますか？

使用していない場合は最新のものにアップデートして下さい。

- ルーティング上で正しくオーディオ信号がルーティングされていますか？

HDX、Thunderbolt™、USB 再生時、再生チャンネルを、上から下にドラッグ&ドロップしてライン出力チャンネルにルーティングします。

- DAW上のサンプルレートと Goliath HD のサンプルレートは一致していますか？

Mac をお使いの場合は、オーディオ/MIDI設定画面からサンプルレートが正しく設定されているか確認しDAWのサンプルレートを確認してから Goliath HD のサンプルレートを確認して下さい。

Windows の場合 Goliath HD アイコンを右クリック、プロパティを選択し、詳細設定からプレイバックデバイスの設定を確認して下さい。そして、DAWと Goliath HD のサンプルレートが正しく設定されているか確認して下さい。

接続

信号が正しく入力されない、出力されていないと思った場合

- 入力ソースから正しく信号が発信されていることが確認できますか？
- 入力ソースは Goliath HD に対応するサンプルレートですか？
- 現在のクロックモードを確認して下さい。ソースからクロック信号を受信していますか？
- 接続している方法と Goliath HD のコントロールパネル上に表示されているロックライトが一致しているか確認して下さい。
- 違うケーブル、または別のソースで試して下さい。
- コントロールパネル上のルーティング設定を確認して下さい。シグナルパスは正しくルーティングされていますか？
- ルーティングミキサーへ信号をルーティングした場合は該当するフェーダーが上がっていることを確認して下さい。
- コントロールパネル上の該当するピークメーターをドロップダウンメニューから選択し、
- 信号が受信されていることを、出力されていることを確認して下さい。

DAW

- DAWのバッファサイズを確認して下さい。
- バッファサイズが極めて小さい場合(Windowsのみ、128サンプルより小さい場合)は、設定値を上げてみて下さい。バッファサイズの変更は Goliath HD コントロールパネルから行って下さい。
- DAW上の入出力は正しく設定されていますか？
- DAWの環境設定で Goliath HD がサウンドカードとして設定されていますか？

Goliath HD が DAWに表示されない場合は、まず USB 3.0 または Thunderbolt™ ケーブルを抜いてプラグを差し込んだ後、コンピュータを再起動し、最後に Goliath HD のファームウェア、ドライバ、およびコントロールパネルを再インストールしてください。

11. 技術仕様

Analog Inserts	2 × Inserts on 1/4" TRS (dedicated for inputs 1, 2)
Analog Inputs	2 × DB25 (16 channels) 16 × Mic / Line on XLR combos (incl. 4 × Hi-Z) 4 × Hi-Z inputs on 1/4" TRS on front
Analog Outputs	4 × DB25 (32 channels total) 1 × Stereo pair of Monitor outs on 1/4 " TRS 2 × Stereo Headphone outs on 1/4 " TRS 2 × ReAmp outs on 1/4" TRS
Digital Inputs	2 × ADAT (up to 16 channels) 1 × S/PDIF 1 × AES/EBU (8 channels) 2 × MADI
Digital Outputs	2 × ADAT (up to 16 channels) 1 × S/PDIF 1 × AES/EBU 2 × MADI
HDX	2 × mini HDX connectors for direct Pro Tools connection, 32 Channels I/O each (total of 64 channels)
Thunderbolt™	1 × Thunderbolt™ Gen2
USB	USB 3.0 Super-Speed, Type B connector
Word Clock Input	1 × Input @ 75 Ohms 3Vpp on BNC
Word Clock Output	2 × Outputs @ 75 Ohms 3Vpp on BNC
Atomic Clock Input	1 × 10MHz Input @ 75 Ohms 1Vpp on BNC
D/A Monitor Converter	Dynamic Range: 132dB THD + N: -108dB
D/A Converter	Dynamic Range: 129 dB THD + N: -120 dB
A/D Converter	Dynamic Range: 124 dB THD + N: -112 dB
Mic Preamp	Gain: 0,10 – 65 dB THD + N: -112 dB
Clocking system	4th Generation Acoustically Focused Clocking, 64-bit DDS Oven Controlled Crystal Oscillator
Sample Rates	32, 44.1, 48, 88.2, 96, 176.4, 192 (kHz)
Electrical Specs	AC Universal input: ~95-245 V Power Consumption: 40 Watts Max
Physical Specs	Dimensions: 483 mm/19" (W) / 81 mm/3.2" (H) / 279 mm/11" (D) Weight: 6.8 kg/ 15 lbs approx.